



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第81回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

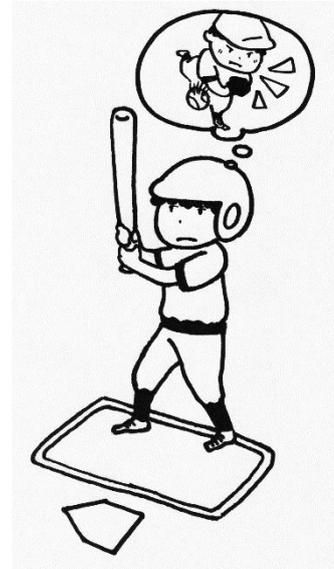
グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

マナー編 打者席で打撃姿勢を取らない選手を指導 (第62回全国高等学校軟式野球選手権大会兵庫大会より)

打者席に入ったものの、打撃姿勢をとらない選手に対し、球審が何か指導していました。指導後、選手は打撃姿勢をとりました。プロ野球等では、試合展開によっては投手が打者席に入った際に明らかに打つ姿勢を見せないことがあり、問題はないと思うのですが?

この試合で、指導を受けた打者は投手でした。打撃に自信がない、酷暑の中での体力温存など理由はあったのかもしれません。今回はマナー編で取り上げましたが、野球規則5.04(b)(1)では、打者の義務として「打者は自分の打順がきたら速やかにバッテースボックスに入って打撃姿勢をとらなければならない。」、また5.04(3)で「打者が、バッテースボックス内で打撃姿勢をとろうとしなかった場合、球審はストライクを宣告し、(後段略)」、更に【原注】では「球審は、本項により打者にストライクを宣告した後、再びストライクを宣告するまでに、打者が正しい打撃姿勢をとるための適宜な時間を認める(下線は筆者加筆)」とあります。当然規則に従えば、ストライクを宣告することになります。

しかし、「正々堂々とプレイすること」「相手を尊重してプレイすること」といった高校野球の精神、また原注下線部の意図も勘案して球審は打者に指導したものです。「攻撃側は、まず打者が走者となり、走者ランナーとなれば進塁して得点することに努める。」(規則1.02)「守備側は、相手の打者が走者となることを防ぎ、走者となった場合は、その進塁を最小限にとどめるように努める。」(規則1.03)ルールの大原則を尊重し、マナーに基づく指導を行ったのでしょう。



ルール編 外野に位置したボールボーイがフェア打球を拾いあげた

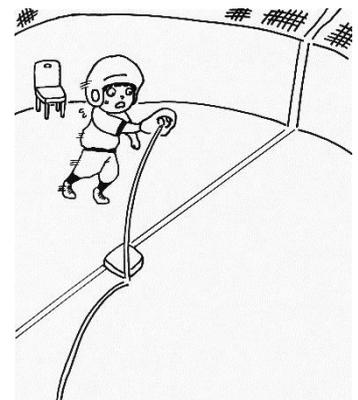
(第99回全国高等学校野球選手権大会兵庫大会より一部改)

一死走者1塁、三塁線を抜けるゴロの打球、3塁塁審がフェアの判定を下しましたが、外野に位置するボールボーイがこの打球をファウルボールと勘違いしたのか拾い上げてしまいました。故意ではなかったようなので、インプレイではないのですか？

外野に位置するボールボーイの活動により試合進行が円滑になり、その役割は非常に重要です。一方で、本塁より遠いところに位置し、高い集中力を維持して試合進行をサポートすることは大変な労力です。

さて、野球規則 6.01(d)では「競技場内に入ることを公認された人(試合に参加している攻撃側メンバー、またはベースコーチ、そのいずれかが打球または送球を守備しようとしている野手を妨害した場合、あるいは審判員を除く。)が競技を妨害したとき、その妨害が故意でないときは、ボールインプレイである。しかし、故意のときには、妨害と同時にボールデッドとなり、審判員は、もし妨害がなかったら競技はどのような状態になったかを判断して、ボールデッド後の処置をとる。」とあります。【原注】では「(前略)例えば、バットボーイ、ボールボーイ、警察官などが、打球または送球に触れないように避けようとしたが避けきれずに触れた場合は、故意の妨害とはみなされない。しかしボールをけったり、拾い上げたり、押し戻した場合には、本人の意思とは関係なく故意の妨害とみなされる。」とあり、この試合では、ボールデッドを宣告し、妨害があった場合の状況を4名の審判員で協議し、処置を行いました。

また、走者がいない場合、捕手が後方に逸らした投球を追わず、ボールボーイが思わず追いかけて、拾いあげるシーンをしばしば見かけます。ボールインプレイの状態ですから、捕手はボールを追いかけて拾わなければならない、球審も捕手およびボールボーイへの見守りが必要です。



イラスト協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科
谷口 芽衣子さん (2年)